
最終神話

憂鬱のシと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最終神話

【Nコード】

N6724C

【作者名】

憂鬱のシト

【あらすじ】

何事もない日常。そして世界。しかしそれは全て偽りのもの。何も知らない人々。すでに計画は始まり、そして大失態を起こしていた。世界滅亡へのカウントダウンはすでに始まっている。

第1話 国防本部 I L I S

『本部！こちら国防自衛軍…第17隊！…駄目です！！通常兵器では歯がたちませんっ！！』

『六式N型爆弾を投下して下さい！！』

連なる爆風。

人々の叫び。

ガラスが砕けちる。

銃声。

そして新鮮な死体。

ある壊れかけた街での話。

『本部っ！こちら17隊！！もう無理です！至急六式N型ば…』

！！？

一筋の光が彼を貫いた。

『うぐっ…』

ドサ…。

『しつこいんだよな…』

光の先には血にまみれた一人の男が立ち尽くしていた。

『はは…血。』

もっと…もっとだ！もっと血が欲しい！強さを…存在を！アイツらに知らしめるための血！！』

男は発狂していた。

『あああ！！アイツらを見返してやるんだ。
そして僕らは神になる！！』

彼は全身から光り発し…そして
壊れかけた街が一瞬輝いた。

無。

全てが消えた。

砂煙の混じった爆炎の中を彼は北へ歩いていった。

時は同じく国防自衛軍本部。

『第17部隊、通信及び映像回線途切れました。』

『生命反応1。やはりヤツは生きています。』

『驍羽司令官、どうされますか。』

『そうか。やつには通常兵器が効かない事は分かっていたがな。まさかあんな広範囲攻撃が出来たとは。』

『驍羽、よかつたな。六式を発射させなくて。』

『ああ…香山、あれは最終兵器。この星を滅ぼす可能性すらあるかな。メフィストの許可を取らねばならん。』

驍羽は席を立った。

『行ってくる、香山。あとハルカを起こしといてくれ。』

『ああ、あとは任せろ。』

…。

さらに時は同じく東京。

『あーあ…なんか楽しい事ないの？』と琢磨。

『あつたらとつくにやってるよ』と賢一。

ある二人組の高校生。

『てか、知ってる？和歌山県の事件』

『知ってるよ、消えたんでしょ？跡形もなく』

『琢磨ー、お前なもつと興味持てないの？都道府県の一つが大爆発で消えたんだぜ？』

『だって俺には関係ないじゃないか。』

『はあ…まったく。お前つてやつは。』 賢一がため息をついた。

『賢一こそ、変な事に興味持ちすぎだよ。世の中は結局自分なんだから。』

そんな事を言い合いながら大通りを歩いている時だった。

後ろから声がかかる。

『厚木琢磨君だね？』

長身、サングラス、スーツ。

明らかに異常。

『は…はい。』

男は右手を前に出し、手に握られている国防本部のセキュリティカードを見せた。

『一緒に来てくれないか』

これが悪夢の始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6724c/>

最終神話

2011年1月16日05時10分発行